

小さくても誇りをもって輝くまち、  
ひがしそのぎ  
東彼杵町。



HIGASHISONOGI

長崎県のほぼ中央、大村湾の東に位置する東彼杵町は、人口7395人、学校数は小中合わせて3校、児童生徒数506人の小さな町です。

彼杵の古墳、ひさご塚。



東彼杵が本気で挑む 個別最適な学び

知ること、学ぶことは、活かしてこそ深まる。  
個別最適な学びの実現には、時間がかかります。「本気で挑む」には、継続が必要です。  
もちろん学校だけでは実現できません。  
今、本町の教育は、大勢の人が関り、縦横無尽につながって、  
どんどんブラッシュアップされています。

海  
の  
見  
え  
る  
千  
綿  
駅  
。



そのぎ茶

過去何度も農林水産大臣賞を受賞したお茶が東彼杵町の特産品です。







# 教科の壁を破るカギは「子どもたちを輝かせる」こと 子どもたちも、教員も、協働で学びに向かう



## 自分なりの視点を持つ 中2 社会・歴史「江戸時代の改革」

江戸幕府の諸改革の具体的な内容を比較検討する活動を通して、江戸時代の政治改革が繰り返された理由を多面的・多角的に考察し、幕府政治が行き詰まりを見せたことを理解する。江戸時代の政治改革について評価項目をもとに内容を検討することで、自分なりの評価を出すことができ、江戸時代の改革について様々な視点を持つことができる。

### 純子先生にインタビュー

Q. 中学校では積極的にICTを活用されていますが、ICTのメリットは何ですか？  
A. ICTの導入によりワークシート作成の時間が大幅に削減されました。デジタルでワークシートや授業を作ると他のクラスでも、次の年度も使えるので、授業準備の効率は断然アップしています。特に、ICTを使うことで授業の質が向上したと思っています。

Q. 子供たちにも変化がありましたか？  
A. 自分たちで学び方を選択するようになったことで、子供たちが主体的に学ぶ姿勢を身につけたと思います。子供たち自身が主体的に授業に参加できるように授業構成やプロセスを考えていますので、子供たちの学び方の質も向上していると思います。

Q. 社会科では、ICTがどんな場面で活かされましたか？  
A. 以前、地理の単元の振り返りとして、授業前後に「社会科学習に関するアンケート」をしました。その中で特に、大きな変化があった項目が、3項目です。

①は、地理的学習を不得意としている生徒が多い中で、この単元ではより、身近な自分たちの町の学習を、自分事としてとらえた結果が出ています。また、④・⑤については、協働学習を行う中で、小さな集団での討議が大変有効であったことを示しています。

自分を表現することに自信が持てない生徒が多い学年でしたが、学習する中で自信をつけることができたことと感想に書いている生徒が多数いました。これからも、子供たちが主体的・探究的学び方ができる社会科の授業にICTを活かして取り組みたいと思います。

#### 【7時間目】まとめ（ふりかえり）

アンケート項目	(学習前→学習後 %)
①日本や世界の諸地域の特色を理解できる	(39→89)
②学習課題を調査しまとめることができる	(62→72)
③学習課題を多面的・多角的に考察できる	(56→63)
④学習内容に対する説明や議論ができる	(29→60)
⑤学習課題を追究し解決することができる	(46→83)
⑥社会科学習に意欲的に取り組むことができる	(73→82)



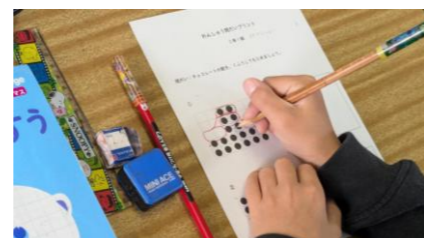
## 誰と学ぶか どう学ぶか 2年 算数「かけ算(2) 九九をつくろう」

乗法の意味について理解を深め、計算の仕方を考えたり乗法に関して成り立つ性質やきまりを見出したりする力を養うとともに、計算方法などを 数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする 態度を養う。数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理や、乗法について成り立つ性質やきまりを用いることによさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

### 紗英子先生にインタビュー

Q. 「深い学び」を実現するために、授業で工夫されていることをぜひ教えてください。

A. 自分では気づけなかった解き方や考え方を知り、「そんな方法があるのか」という気づきを得たときに「深い学び」が生まれると思うので、新たな方法や意外な解き方を見出した子がいると、必ずピックアップするようにしています。今回の授業では、「みなして引く」という考え方が、子どもたちにとって意外で「深い学び」に繋がるものでした。「深める」場面では、「(みなす)考え方の児童がいなかったのだからこちらから問いかけたのに加え、終末の適用問題では、「みなして引く」解き方をしたほうが早い問題を出題しました。



また、田村学先生の著書に、「共通点に注目することの意義」が書かれています。「よく見るとどの解き方も同じ数のまとまりに注目している」「共通点をさらに細分化することで新たな方法を発見できる」といった気づきを得ることで、知識が相互に結びつき、質が上がる＝「深い学び」に繋がるのだと考え、本時のまとめの場面子どもたちに着目させました。



## アイデアが生まれる授業 4年 算数「垂直、平行と四角形」

「様々な四角形を分類する」という活動を通して、台形と平行四辺形の特徴を理解することがねらいです。台形と平行四辺形の定義を理解できれば、分類することはそう難しくありません。でも、まず自分たちで分類をした方が理解が深まると考えました。今回の展開で、最後の適用問題はほとんどの児童が全問正解できていたので良かったです。

### 優花先生にインタビュー

Q. とてもテンポの良い授業ですね。授業を行う上で意識されていることをぜひ教えてください。

A. 授業で意識していることは、退屈する時間や空白の時間を作らないことです。4年生は人数が多いのでどうしても差が生まれてしまうのですが、「全員」を待ち過ぎないように心がけています。全員が理解するまで待ってしまうと、早く理解できた児童は時間を持て余してしまいがちです。早く終わった子もそうでない子も、必ず全員何かすることがある、という状態になるような指示を心がけています。



一回の活動ですべてを理解できる必要はなく、友達や先生に聞いたり、二回三回と繰り返し似たような問題を解いたりしながら、徐々にわかるようになれば良いとも思っています。これは学級経営にも言えることで、子どもたちには一回(の指示・指導)で完璧を求めません。ただし、「その言葉は絶対許されない」「ここは絶対聞いてほしい」といった場合には、全員がこちらを向くまで待ったり、全員に理解させようと話したりします。